

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 第46回本部会議 記録

日 時／令和3年4月15日（木）
15：30～：16：02
場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

【副本部長（中野副知事）】

それでは、ただいまから、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部第46回本部会議を開催いたします。

まず、道内の感染状況等について、新型コロナウイルス感染症対策監から説明をお願いいたします。

【原田新型コロナウイルス感染症対策監】

資料1をご覧くださいと思います。

道独自の警戒ステージの指標についてでございます。

昨日、4月14日時点でございますけれども、全道では、病床、陽性率、新規感染者数など、5つの指標について、先週に比べて増加傾向でございます。

このうち札幌市内では、療養者数はじめ4つの指標で増加傾向という状況でございます。次のスライドをご覧くださいと思います。

最近の感染状況等について、まとめたものでございます。

全国的に感染が再拡大しておりまして、4月12日には、まん延防止等重点措置の区域が追加されておりますほか、大都市圏以外での地域でも、感染者数の急速な増加が見られている状況でございます。

本道は他県との往来が活発でございまして、昨春も全国的な感染拡大の後に、道内の感染が急速に拡大した経緯がありますことから、全国の感染動向には警戒が必要な状況でございます。

続いて感染状況でございますが、道内の新規感染者数は、昨日時点では、人口10万人当たり10.2人となっております。4月10日には、新規感染者数が100人を超えて、また、本日も101人となっております。札幌市への不要不急の外出、往来自粛要請を決定した3月26日と比べて増加している状況でございます。

札幌市においては、全道の感染者数の約7割を占めておりまして、昨日現在で、10万人当たり19.9人となっております。また、感染しやすいとされる変異株の感染も増加しておりまして、急激な感染拡大には至っていないものの、感染者の行動履歴を見ますと、個人活動や会社、医療・福祉施設など、様々な場面で感染が確認されておりまして、また、医療施設などでの集団感染も複数発生している状況でございます。

札幌市以外でございますが、4月14日には10万人当たり4.6人で、札幌市との往来自粛要請を行った3月27日以降、低い水準で抑えられております。

また、旭川市内では、特定の集団感染から派生した感染者数の増加が見られておりまして、10万人当たり15.7人で推移している状況でございます。

医療提供体制でございますが、札幌市内では、入院患者数や重症患者数の急激な増加傾向が続いておりまして、札幌の入院患者数が全道の数を押し上げており、医療提供体制は

厳しい状況が続いているという状況でございます。

次のスライドをお願いします。

今後の対応についてでございますが、感染しやすいとされる変異株が増加し、全国的な感染の再拡大が見られる中、人の移動が活発化しますゴールデンウィークを迎える状況です。

今後、急速な感染拡大を生じますと、交通事故や急病など、緊急時の医療が受けられなくなる事態が強く懸念され、また、ワクチン接種にも大きな支障が生じるおそれがございます。

このため、感染が再拡大しております他都府県との往来は、最大限、警戒するとともに、ゴールデンウィークに備えまして、感染リスクが高い飲食の場面などでの感染防止行動の徹底が必要な状況でございます。

特に札幌市ですが、人の往来が活発であり、昨年11月上旬の感染拡大局面では、市内での感染拡大から10日程度遅れて全道で拡大するとともに、札幌の医療のひっ迫は、全道の医療提供体制にも大きな影響を及ぼすため、これ以上の札幌市内での感染拡大を防ぎ、全道の拡大につながらないように、引き続き、札幌市を対象に強い措置を講じる必要があると考えてございます。

また、旭川市内の集団感染の抑え込み支援など、道内各地域の感染状況に応じた対策を進めますほか、積極的疫学調査や変異株への監視強化など、感染再拡大の予兆の探知に加えまして、繁華街での見回りの実施や、公共施設・交通施設での感染防止対策の周知徹底などを図るなど実施してまいりたいと考えてございます。

スライド4以降でございますけれども、ただいまの説明に関連するデータをつけておりますので、後ほどご参照いただければと思います。

私からの説明は以上でございます。

【副本部長（中野副知事）】

ただいまの説明に関連をいたしまして、札幌市の感染状況につきまして、本日、オブザーバー出席をいただいております札幌市の山口感染症担当部長から、説明をお願いいたします。

【山口札幌市感染症担当部長】

札幌市の山口でございます。

それでは、資料2に基づきまして、札幌市の感染状況についてご説明をいたします。

次のスライドをご覧ください。

新規感染者の週合計を示したスライドでございます。

これにつきましては、最近増加傾向にあるところが見られるかと思えます。

また、1日の新規の感染者数では、4月10日に93人、また本日の公表分では79人と、10人に迫る人数になってございます。

感染者数の急増にはいたっていないものの、予断を許さない状況が続いてございます。

感染経路が追えない方、これは黒でリンクなしと書かれてる部分でございますけれども、これも全体の約40%と依然と高い水準が続いており、感染の広がりに注意が必要な状況と考えております。

それでは、次のスライドをご覧ください。

新規感染者数が青い棒グラフでございまして、黄色の入院患者数、そして赤の折れ線の重症患者の推移となったグラフでございます。

変異株患者の増加に伴いまして、入院が必要な患者が急増ということで、黄色のグラフが非常に高くなっているところでございます。

厚労省の通知によりまして、変異株の感染者の退院の際には、2回のPCR検査での陰性確認が必要でなくなりましたが、医療機関での集団感染事例の発生の影響などもありまして、高い入院患者の水準が続いてございます。

また、赤い折れ線グラフの重症患者でございしますが、4月10日には昨年10月以降では最大の22人となるなど、高い水準での推移でございます。

いわゆる昨年の11月の第3波とは異なりまして、新規感染者数が大きく増加していないにも関わらず、入院患者数や重症患者数が大きく増加しており、医療体制の負担が大きくかかっている状況でございます。

それでは、次のスライドをご覧ください。

これは検査数の推移でございます。

直近の1週間では、検査件数は8,178件であります。1日の平均では1,100件程度を実施している状況になります。

また、最近の陽性率でございしますが、4.8%と増加基調にあるところでございます。

それでは、次のスライドをご覧ください。

年齢別の感染者数の割合でございます。

一番右側のところをご覧ください。色がカラフルになっている状況でございまして、割合もほぼ同等というところで、各世代に幅広く感染の広がりが見られている状況でございます。

それでは、次のスライドをご覧ください。

札幌市内の新規感染者の感染経路についての分析でございます。

直近では、医療機関の集団感染の発生により病院を感染経路とする事例が増加しているところでございまして、これは薄いオレンジ色の部分でございます。

また、職場を感染経路とする事例も増えてございます。

これは会社と学校の部分ですので、緑色のところでございます。

また、感染連鎖の引き金となり得る個人活動によるこの青のところの感染事例も一定程度生じているところでございます。

それでは、次のスライドをご覧ください。

新規感染者の最近の傾向でございますけれども、変異株の感染が本格した3月の半ば以降、直近4週間の新規の感染者のうち、約2割にあたる260件が個人活動によるもので、飲食店や自宅での会食・会話によるものがそのうちの7割を占めるなど、飲食の場面を介した感染が多発している状況というふうに考えております。

主な感染事例といたしましては、会館でのサークル活動などの地域活動や、学生のサークル活動や部活動、特に休憩時間や練習後の会話や飲食における感染の疑いがみられるほか、友人との自宅や飲食店での会食などでの感染疑い事例が多く見られてございます。

これらの多くで共通する要素といたしましては、右側の赤い枠で囲っておりますけれども、マスクなしでの飲食や会話を行っている場面がございまして、これが感染拡大に繋がっているとみられることから、人が集まる場、それから、飲食の場面における感染対策が重要というふうに考えてございます。

それでは、次のスライドをご覧ください。

これは市内の集団感染事例でございます。

先ほどの感染経路にも関連しておりますけれども、病院や福祉施設等で新たに集団感染が発生していることから、施設にウイルスを持ち込まない、また、その中で拡げないということが重要でございます。

それでは、次のスライドをご覧ください。

最後に、変異株の検査状況でございます。

4月6日から4月12日までの下段の1週間の部分でございますが、新規陽性患者数が375のうち、その約7割の約268検体について、民間PCRスクリーン検査を行っております。実施率は約65%と前週からの増加が約65%でございます。

陽性率が65%ということになってございまして、この前週が52.4%でございますので、増加が見られることから、感染拡大を防ぐためにも、変異株の市中へのさらなる拡がりの抑え込みが重要と考えてございます。

以上でございます。

【副本部長（中野副知事）】

それでは、続きまして、感染の再拡大防止に向けての改訂等につきまして、まずは総合政策部長から説明をお願いいたします。

【濱坂総合政策部長】

資料3、感染の再拡大防止に向けてをご覧くださいと思います。

札幌市内における厳しい感染状況等を踏まえまして、引き続き、札幌市内を対象として、不要不急の外出・往来自粛という強い措置を講じるとともに、ゴールデンウィークにおける感染防止対策への協力要請等を行うこととしたいと考えてございます。

スライド3をお願いします。

まず、4月17日から5月14日までの間、札幌市に関する協力要請として、感染リスクを回避できない場合に札幌市内においては、不要不急の外出を控える、札幌市との不要不急の往來を控えるという2点を継続して要請したいと考えております。

この要請につきましては、札幌市の新規感染者数が週あたり293人以下、病床数は110床以下を目安として、感染状況に応じて期間中の解除についても検討することといたします。

また、全道におきましては、ゴールデンウィークにおける感染防止行動の徹底をお願いすることとしたいと考えてございます。

具体的には、まず、移動の場面では、外出、飲食、職場の3つの場面における感染防止行動の実践を特に徹底していただくとともに、大人数での会食が避けられない場合は旅行を控える、あるいは旅行の延期を検討していただくことをお願いするほか、本道はこれから花見シーズンを迎えますことから、花見の場面におきましては、混雑する場所を避け、宴会を控えていただくことを要請することといたします。

続きまして、スライド4でございます。

こうした協力要請にあわせまして、札幌市と連携して、変異株に対する監視体制の強化など、再拡大の予兆の探知をはじめ、ワクチン接種の円滑な実施、繁華街における感染防止対策の徹底などに取り組むことといたします。

次に、スライド5でございます。

全道域におきましても、人の移動の活性化を見据えまして、空港などにおいて、来道者等に対する注意喚起を行うとともに、感染症への対応が長期化する中、あらためて、基本的な感染防止行動の再徹底に向けた普及啓発、それから、教育施設や道立公園における感染防止対策の徹底に取り組んでまいりたいと考えてございます。

続きまして、資料4でございます。これはスライドがございませんので、お手元の資料4をご覧くださいと思います。

資料3の感染の再拡大防止に向けてにつきましては、有識者及び専門家のご意見を伺うとともに、市町村や関係団体にも事前にお知らせしているところでございます。

有識者及び専門家からは、概ね妥当であるというご意見をいただいておりますが、主な意見をご紹介しますと、1-①でございます。「4週間ありきではなく、感染状況が解除基準を下回れば早期の解除も検討すべき。改善しない場合には、短期間で対象を限定した強い措置についても検討すべき。」というご意見をいただいております。感染状況の改善が見られた場合には、期間中の解除についても機動的に検討するなど適切に対応してまいりたいと考えてございます。

続きまして、1-③でございます。「他府県の感染拡大や変異株の感染増加の現状などをしっかりと情報発信し、行動変容を強く呼びかけてほしい。」

続きまして、1-⑦でございます。「大型連休を控えて早めに注意喚起することは必要である。この時期に効果的に強い措置を札幌をターゲットに講じるべきである。」

続きまして、2ページ目でございます。

1-⑩でございます。感染防止対策のスライド3枚目の3つの場面をより具体的にとのご意見をいただきましたので、ご指摘を踏まえまして、外出、飲食、職場というこの3つの場面を記載するように修正したところでございます。

次に、市町村、関係団体からも、概ね妥当であるというご意見をいただきましたが、ご紹介させていただきますと、2-②でございます。「高齢者向けのワクチン支給のスケジュールを早急に示してほしい。」

それから、2-③「観光業は疲弊しており、新しい旅のスタイルのような観光事業向けの対策や支援をお願いしたい。」

それから、3ページ目、2-⑫「宿泊、観光、交通、飲食事業者を中心に経済は深刻なダメージを受けている。雇用維持、事業継続に引き続き、支援をいただきたい。」などのご意見が寄せられたところでありまして、こうしたご意見については、今後の対策に活かしてまいりたいと考えてございます。

続きまして、4ページ目、2-⑰でございますけれども、ご紹介させていただきますと、「移動自体の感染リスクが高いとの検証はなく、移動する行為自体はリスクが低いことと、移動先での過ごし方によってはリスクが高まることを明確に分けた上で、各々に対策を策定し、情報発信すべき。」「飲食に対する更なる徹底した対策を併せて実施することにより、1日も早く外出、移動の自粛措置が解除されるよう、対策を再考されたい。」というご意見もいただいたところでございますが、道としては、感染リスクを回避できない場合における不要不急の外出自粛を要請するものでありまして、外出先での様々な場面で感染リスクを回避できるかどうかを慎重に考えていただきまして、それができない場合には、控えていただくことを呼びかけるものとしたものでありまして、こうした点につきましても、丁寧にこれから情報発信をしてみたいと考えてございます。

私からは以上でございます。

【副本部長（中野副知事）】

それでは、ただいま説明のありました感染の再拡大の防止に向けての改訂につきましては、説明のとおり当本部として決定することといたしたいと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。

特段異論がないようでございますので、それではそのように決定をさせていただきます。次に、各部各振興局等から順次報告をお願いをします。まず、職員監からお願いいたします。

【若原職員監】

総務部からご報告いたします。資料5の裏面をご覧ください。

これまでも職員の感染拡大防止の観点から、テレワークなどを活用しました在宅勤務や時差出勤を推進し、職員の感染リスクの低減に向け取り組んでまいりましたが、今年度から、新たに、職員の多様で柔軟な働き方や、ワーク・ライフバランスの確立、そして北海道スタイルの定着を目指しまして、来週月曜日の4月19日から12月28日までの期間を道庁テレワークデイズ2021としまして、幹部職員をはじめ全職員が、テレワークや時差出勤など積極的に体験、実践する取り組みを新たに進めることといたしました。

また、この期間中の毎週金曜日をテレワークデイとして位置づけまして、在宅勤務やサテライトオフィスでの勤務、出張中のモバイルワークにチャレンジしていただくとともに、課題の洗い出しなどしながら、すべての職員にテレワーク環境が整備されます来年度に向けた準備を進めることといたしております。

この取り組みを通じまして、職員が自分のスタイルに合わせました仕事と暮らしを考えていただければとも思っております。

また、在宅勤務などの取り組みは人と人との接触する機会を減らし、感染リスクの低減にもつながりますので、幹部職員の皆様には、テレワークを実際に体験していただくとともに、各所属におきまして、積極的に推進していただくようお願いいたします。

説明は異常でございます

【副本部長（中野副知事）】

続いて、教育長からお願いをいたします。

【小玉教育長】

先ほど総合政策部長が説明しました資料3のスライド5に掲げております教育機関が一丸となった感染症防止対策の徹底について補足いたします。

学校においては、年度が変わりまして新たな組織体制となりましたが、変異株の流行も懸念され、今後、学校行事や部活動などが本格化し、また、移動や交流が活発化する大型連休を控えておりますので、より一層の警戒が必要と認識しております。

このため、来週、道内の幼稚園、小中学校、高校、特別支援学校、大学専修学校の公立・私立の関係団体にお集まりいただきまして、25団体あるんですが、初めての連絡会議を開催いたします。

そこでスライドに掲げます校内の感染症対策の再確認および衛生管理マニュアルや基本的なルールの遵守・習慣化、修学旅行や部活動における関係団体が定めた感染予防ガイド

ラインの遵守などの主要事項について、子供たちの命と学びを守る共同宣言といたしまして取りまとめます。

幼児から大学生、教職員、その直接の当事者だけでもおおよそ75万人におよびます。

それに加えて、そのご家族にも向けて呼びかけを行うこととしております。

今後とも道内の教育関係機関が一丸となって感染の再拡大防止に取り組んでまいります。

以上です。

【副本部長（中野副知事）】

その他、ご発言のある方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいですか。

それでは、ここで本部長から、お願いをいたします。

【本部長（知事）】

明日で札幌市内への不要不急の外出、不要不急の往来自粛、このお願いをさせていただいた3週間ということであります。

この間、年度末、年度始めということで、この時期は大変感染リスクが上がるだろうということで対応してきたわけでありまして、全国的な状況などを見ますと、大阪府では2日連続で1,000名を超えるという感染確認、また、本日、東京都で729人ですか、感染確認の状況があるなど、全国的に感染者数が急速に増加しているという状況があります。

まん延防止等重点措置、この対象地域などについても増えている状況がありまして、大変厳しい状況が続いているという状況にあります。

札幌市内においても、感染しやすいとされております変異株、先ほど割合の増加などもありましたが、感染確認、こちらが増加をしております。

また、医療提供体制、こちら也非常に厳しい状況が継続をしています。

4月10日には、道内の新規感染者数、これは65日ぶりになりますけれども、2月4日以来、100人を超えて、116人ということになりました。

本日、先ほど札幌市79人、道全体で101人ということで、また100人を超える、そういった感染が本日も確認をされておりまして、予断を許さない状況にあります。

こうした中で、人の移動が一層活発化するゴールデンウィーク、こういったものを迎えるに当たって、今後、感染が拡大をした場合には、この新型コロナウイルス感染症の医療のみならず、交通事故や急病などの救命救急などといったと緊急時の医療への影響、これが強く懸念をされるとともに、これから本格化していくワクチンの接種、こういったものにも大きな支障を生じさせかねないということがございます。

私たち道民にとって、これからの季節、雪も溶けて、待ち望んだ春を迎えて、お花見ですとか旅行などの気持ちが開放的になる、そういう時期なわけでありまして、特に、これまでの3週間、外出自粛、そして往来の自粛などによって、忍耐を強いられてきて、またかともたこれはが外出自粛、往来自粛かということや、これ以上何をすればいいのだといった思いを持つ方もいるというふうに思います。

しかし、昨年11月からの感染拡大がございましたけれども、一時は全国で最も感染者数が多かったのが、北海道なのです。

全国で最も感染者数が多かったわけでありましたが、道民の皆様、事業者の皆様、本当に多くの皆様のご理解とご協力、感染防止行動の実践、こういったものによりまして、緊急

事態宣言、こういった事態に陥ることなく、爆発的な感染拡大を回避をして、感染者数を減少に転じさせたということが、我々の経験としてあるわけでありまして、そして今、先ほど申し上げたように、大阪府では2日連続1,000人を超える、東京でも729人ですか、確認をされるという全国的に感染が再拡大する中で、これまで道民の皆様、多くの方々に感染リスクを回避する行動を実践していただいたことによって、現時点においては、他県で見られるような急激な感染の拡大ということには至っていないわけでありまして。

札幌市、大変厳しい状況にありますけれども、札幌市以外の地域においては、何とか厳しい局面の中でもこらえているという状況があるわけでありまして、これは、まさに道民の皆様、札幌市民の皆様のご理解、ご協力、ご努力、こういったものの賜だということでありまして、心から感謝を申し上げたいというふうに思いますし、こうした経験を踏まえると今の厳しい状況も何とかみんなで乗り越えることができるというふうに思っています。

他県が感染爆発とも言われる事態に見舞われる中で、北海道も厳しい局面に直面をしている、このことをご理解した上で、危機意識をもう一段高めていただいて、この対策本部も何十回もやっています。

何十回もやっているの、皆さんもまた対策本部会議かというふうに思う部分もあるかもしれませんがけれども、危機意識、これをもう一段、各振興局長、これはオンラインですから私は皆さんの顔を全部ずっと見ていますけれども、是非、各地域における地方本部の中心は、振興局の局長を先頭とする皆さんですから、これまでも協力をして前面に立ってやってくれたわけですが、是非、地域とこの危機意識を共有していただきたい、もう一段この危機意識を高めていただきたいというふうに思うわけでありまして。

これから5月14日までの間、長いですがけれども、今一度、札幌市内における外出の自粛、道民の皆様におかれては札幌が大変厳しい状況にありますので、不要普及の往来、これを控えていただく、このことについて、道民の皆様にも再度、ご理解とご協力を強く皆様からもお願いをしてほしいというふうに思います。

各本部員においては、あらゆる機会を通じて、このたびの対策の必要性、そして内容について、道民の皆様にも改めてご理解とご協力をいただくように尽くしていただきたいというふうに思います。

また、特に感染症との闘いが長期化しています。

そして今一度、原点に立ち返っていただいて、マスクの着用、これは多くの方々がマスクの着用を徹底していただいています、多くの場面でお互いがチェックする、そういう機会もあるというふうに思っています。

一方で、手指消毒ですとか手洗い、こういったところはもしかしたら、かつての危機意識から比べると疎かになっている部分もあるのかもしれませんが。

こういったところなど基本的な感染防止行動を確実に実践をしていく、このことが全国的に非常に感染が拡大している中で、なんとか北海道は踏みとどまっていけるかどうか、これがかかっていると思います。

是非、また同じことを言っていると、そういうことではなくて、今一度、この社会生活の中での定着を、そのことが重要だということを是非実践していただきたい、普及啓発にしっかり取り組んでいただくように、あらためて指示をさせていただきます。

また、道としても、変異株、これは全国の中でも最もやっているのではないかとというくらい監視体制を強化してまいりました。これからはしっかりと強化をしていく。

そして感染再拡大の予兆の探知、そして早期介入、飲食店への見回り、これも札幌市と協力をしてしっかりやっていきます、公共施設、観光・交通拠点、あらゆる場面での啓発、再拡大の防止に徹底して取り組んでいく。

このことはもとより先ほどありました、道が率先をしてテレワークや時差出勤、これは幹部職員の皆さんに積極的にテレワークも体験していただきたいというふうに思いますけれども、経済団体に求めるだけではなくて、我々がまずしっかりやらなくてはならないということでもあります。

こちらも着実に推進するように指示をいたします。

この1ヶ月、この再拡大の防止、極めて重要になると思っています。

何とか、このワクチンの接種、これは市町村は大変苦勞して準備してくれています。

全体の量も何とか国の方で確保する、その努力をしています。

そういった苦勞がしっかりと報われるためにも、これは感染が急拡大しますとそういったこともなかなかままならなくなってしまいます。

ですから、こういった重要な時期、市町村、関係団体としっかり連携していただいて、これは毎回言っていますけれども、全庁一丸となってしっかり取り組んでいきたいというふうに思いますので、心から各地方本部、そして全庁一丸となって取り組んでいければというふうに思います。

私からは以上です。

【副本部長（中野副知事）】

それでは、ただいま本部長から指示のありました事項につきまして、各本部長、速やかに必要な対応をお願いをいたします。

それでは、以上をもちまして、第46回本部会議を終了いたします。

(了)